

聖路加看護学会

ニュースレター

第16回聖路加看護学会学術大会を終えて 第16回聖路加看護学会学術大会を振り返って 第16回聖路加看護学会学術大会報告
参加者からの一言メッセージ 聖路加看護学会第六期選挙結果 聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金「研究助成」採択者一覧
第16回聖路加看護学会総会の焦点 第17回聖路加看護学会学術大会のご案内 お知らせ 編集後記

●第16回聖路加看護学会学術大会を終えて

第16回学術大会 大会長 田代 順子 (聖路加看護大学)

秋晴れの9月24日(土)に144名の参加者を迎え、無事、学術大会を終了することができました。全ての参加者および企画段階からご支援をいただきました方々に深く感謝いたします。学会準備の過程で、東日本大震災を経験し、被災地・者への復興に貢献できる看護を考えながら大会準備ができたことにも感謝します。

第16回学術大会では、今日の日本の看護が直面している“看護実践の高度化と役割拡大のなかで、『看護の可能性を拓く』”をテーマに開催しました。30年前、聖路加看護大学・大学院の設立当時、大学院の専攻数は看護教育学、看護管理学、小児看護学、成人看護学、地域看護学、母性看護学の6領域でしたが、現在、21領域に広がりました。新たな領域の一つが国際看護学です。講演では、開講のきっかけとなった「国際看護師の能力に関する研究」や「カリキュラム開発研究」を紹介させていただきました。

特別講演は、WHO 看護開発協力センターで構成する「グローバルネットワーク」の元事務局長、Professor Barbara Parfitt に、「Globalization と Advanced Nursing」をお願いしました。特別講演では、私達はグローバリゼーション社会の中で生活し、その中での健康・看護ニーズに応じてゆくことが必要であることを確認されました。また、Advanced nursing を上級看護と訳しますが、Advancing nursing は看護を拓くことであり、その帰結として上級看護となるという当然のことも気づかされました。

シンポジウムでは、「看護実践の高度化と役割拡大」をテーマとして、これから開講予定の「脳神経看護学」と、新たに開講した「遺伝看護学」、「周麻酔期看護学」の紹介と看護実践の展望が語られました。会場から、脳神経看護学の地域での看護実践を強化する必要性が語られ、遺伝子看護学の上級実践者のキャリア開発の課題等の質問もあり、共に考える機会を与えられました。

研究発表では、26題の研究が発表され、ランチョンセミナーでは、「聖路加国際病院の看護継続教育」と大学職員の海外研修報告が People-centered Care を拓く視点でなされました。

看護学の細分化が進み、看護の中での共通言語を失いがちな今日、今後、看護をどの様に拓いてゆかなければならないのか、あるいは看護を Advancing するのかを考えた1日であったと思います。参加された皆さんが考える時間となったことを願っております。



●第16回聖路加看護学会学術大会を振り返って

事務局 長松 康子 (聖路加看護大学)

昨年10月、第16回聖路加看護学会学術大会企画委員会が発足しました。着々と準備が進む中、3月11日に発生した東日本大震災がたくさんの尊い命を奪いました。患者さんや住民を守ろうとした看護師・保健師の方たちの命も天に召されました。日本中が深い悲しみに覆われた半年でした。さらに震災に続いた福島原発事故は、日本を混乱と不安に陥れ、放射能を恐れた外国人が日本を出国するという事態にまで発展しました。この未曾有の大災害から学んだことは何でしょうか？災害にあって看護は何を求められているのでしょうか？将来の起こりうる災害から人々を守るために、看護がすべきことは何でしょうか？厳しい課題を突き付けられているように思いました。聖路加看護学会員の方々も、様々な形で被災地での支援活動に参加されました。学術大会の示設発表で支援活動についての報告がありました。企画委員会は会議費を節約するとともに、シンポジスト・座長の先生方にご理解いただき、謝礼を募金しました。また、学術交流広場で聖路加看護大学が行う福島支援プロジェクト「きぼうときずな」の活動を紹介してもらいました。さらに、学術大会会場に募金箱を設置したところ、6万円ものご寄付が集まりました。いまだに多くの方々が仮設住宅での生活を余儀なくされています。苦しむ人たちの最も近くにいつも看護がありますように。第17回学術大会が開催される頃には、復興が進み、被災者の皆様のご苦労がなくなるよう心から祈ります。

最後になりましたが、陰で企画委員を支えてくれたのはアルバイトの河合稔さんと梅崎智子さんです。ホームページに使用した写真は白木敏夫さんが撮影して下さいました。

第16回 聖路加看護学会学術大会報告

[日 時] 2011年9月24日 [土] 9:00~17:00
[会 場] 聖路加看護大学
[大会長] 田代 順子 (聖路加看護大学)
[テーマ] 「看護の可能性を拓く」—看護実践の高度化と役割拡大の中で—

総 会 9:00~9:30
アリス C. セントジョン メモリアルホール

大会長講演 9:40~10:15
アリス C. セントジョン メモリアルホール
「グローバルヘルスニーズの変遷と日本の国際看護の発展」
講演者 田代 順子 (聖路加看護大学)
司 会 山田 雅子 (聖路加看護大学)

特別講演 10:15~11:45
アリス C. セントジョン メモリアルホール
「Globalisation & Advanced Practice」
講演者 Professor. Barbara Ann Parfitt (Principal of Graemeen Caledonian College of Nursing)
司 会 田代 順子 (聖路加看護大学)

ランチョンセミナー 12:00~12:45
301講義室
「聖路加国際病院の看護継続教育」
高屋 尚子

302講義室
「People-Centered Careをひらく~海外研修報告~」
長松 康子、小林 真朝、伊東美奈子

示 説 ラウンジ
発表 13:00~14:00
掲示 9:30~16:30

- 【第1群：基礎看護・看護教育・看護管理】
座長 高屋 尚子 (聖路加国際病院)
- 1 病棟看護師にみる「安楽」な看護の発展についての考察
○佐居 由美¹⁾、川内有希子²⁾
¹⁾ 聖路加看護大学、
²⁾ 聖路加国際病院
 - 2 大学の保健管理に携わる看護職の配置状況と職務内容に関する全国調査
○砂川 昌子¹⁾、麻原きよみ²⁾、柳井 晴夫²⁾
¹⁾ 東京女子大学、²⁾ 聖路加看護大学
 - 3 A大学に進学した学生の高校での学習履歴と専門性への適性度との関連について
○奥 裕美¹⁾、柳井 晴夫²⁾、倉元 正樹³⁾
¹⁾ 聖路加看護大学大学院博士後期課程、²⁾ 聖路加看護大学、³⁾ 東北大学
 - 4 臨地実習生の質の確保のための看護系大学共用試験 (CBT) 開発研究
○柳井 晴夫¹⁾、亀井 智子¹⁾、松谷美和子¹⁾、中山 和弘¹⁾、井部 俊子¹⁾、奥 裕美²⁾、西川 浩昭³⁾、高木 廣文⁴⁾
¹⁾ 聖路加看護大学、²⁾ 聖路加看護大学大学院博士後期課程、
³⁾ 静岡県立大学、⁴⁾ 東邦大学
 - 5 看護学生の看護実践能力調査：卒業時と3か月後の比較
~看護行動測定尺度 (Six-D Scale: Schwirian) を用いて~
○松谷美和子¹⁾、高屋 尚子²⁾、西野 理英²⁾、飯田 正子²⁾、寺田 麻子²⁾、平林 優子¹⁾、佐居 由美¹⁾、村上 好恵³⁾、桃井 雅子⁴⁾
¹⁾ 聖路加看護大学、²⁾ 聖路加国際病院、³⁾ 首都大学東京、
⁴⁾ 聖マリア学院大学
 - 6 3年課程看護専門学校における国際看護教育の取り組みと今後の課題
—学生のコメントカードの調査から—
○亀井 縁
聖路加看護大学大学院博士後期課程

- 【第2群：母性看護】 座長 森 明子 (聖路加看護大学)
- 7 妊娠中期から末期における妊婦のマイナートラブルの推移
○高橋 美保¹⁾、島田真理恵²⁾
¹⁾ 聖母病院、²⁾ 上智大学



大会長と特別講演の Dr.Parfitt



ランチョンセミナー



示説発表

- 8 妊娠中期から末期における妊婦のマイナートラブルの発症と日常生活との関連
○高橋 美保¹⁾、島田真理恵²⁾
¹⁾ 聖母病院、²⁾ 上智大学
- 9 東日本大震災における女性支援活動報告—「オンナのなつても (なんでも) 袋」の配布を通じて—
○五十嵐ゆかり¹⁾、小黒 道子¹⁾、飯岡由紀子¹⁾、石川 えり²⁾、石井 宏明²⁾
¹⁾ 聖路加看護大学、²⁾ 認定 NPO 法人難民支援協会
- 10 助産学生のバースレビュー実践を支援する教育プログラムの開発
○西部 未希¹⁾、片岡弥恵子²⁾
¹⁾ 聖路加国際病院、²⁾ 聖路加看護大学
- 11 在日フィリピン人乳がん早期発見プログラムにおけるパートナーシップの評価
○鈴木 良美
東邦大学

- 【第3群：成人・小児看護】 座長 飯岡 由紀子 (聖路加看護大学)
- 12 妊娠期女性に対するプレスト・アウェアネス健康教育プログラムの開発
○猪俣重紀子¹⁾、片岡弥恵子²⁾
¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院、²⁾ 聖路加看護大学
 - 13 医療者が行う重症心身障害児の胃瘻造設に関する親の意思決定支援の現状
○小泉 麗
聖路加看護大学大学院博士後期課程
 - 14 比較的進行が遅いため、受容が良い中皮腫患者の事例報告
○細川 恵子¹⁾、長松 康子²⁾、名取 雄司³⁾
¹⁾ 聖路加国際病院、²⁾ 聖路加看護大学、³⁾ ひらの亀戸ひまわり診療所
 - 15 一人暮らしの中皮腫患者に永眠まで在宅にて全人的ケアを行った事例
○松浦 志野¹⁾、長松 康子²⁾、名取 雄司³⁾
¹⁾ 東京医科歯科大学大学院博士後期課程、²⁾ 聖路加看護大学、
³⁾ ひらの亀戸ひまわり診療所

- 【第4群：老年・在宅看護】 座長 吉田 千文 (千葉県立保健医療大学)
- 16 認知症高齢者へのライフレビュー実践による「メモリーブック」の作成と利用による心理・生活行動の変化
○亀井 智子、山本 由子、梶井 文子
聖路加看護大学
 - 17 訪問看護師が捉えた一人暮らし認知症高齢者の「暮らし」の様相
○松下由美子
聖路加看護大学大学院博士後期課程
 - 18 アルツハイマー型認知症高齢者のせん妄様症状の特徴と看護
○堀内 園子¹⁾、長谷川真澄²⁾
¹⁾ NPO 法人なすなコミュニティ、²⁾ 天使大学
 - 19 在宅ターミナルケアの看取りにおける充実感
○村田 千穂¹⁾、飯岡由紀子²⁾
¹⁾ 聖路加国際病院、²⁾ 聖路加看護大学
 - 20 在宅看護領域における専門看護師等の医行為提供の実態
○田代 真理¹⁾、山田 雅子¹⁾、本田 彰子²⁾、吉田 千文³⁾、内田千佳子⁴⁾
¹⁾ 聖路加看護大学、
²⁾ 東京医科歯科大学、
³⁾ 千葉県立保健医療大学
⁴⁾ 聖路加看護大学看護実践開発研究センター

- 【第5群：国際看護】 座長 成瀬 和子 (聖路加看護大学)
- 21 フィリピン都市部スラム地区のH幼稚園児の栄養状況に関する研究
○光成真理子¹⁾、長松 康子²⁾
¹⁾ 聖路加国際病院、
²⁾ 聖路加看護大学
 - 22 フィリピン都市部在住の HIV 感染者が抱える困難
○志波 美帆¹⁾、鈴木ゆかり¹⁾、長松 康子²⁾
¹⁾ 聖路加国際病院、
²⁾ 聖路加看護大学
 - 23 フィリピン・マニラの貧困層 男性喫煙者の喫煙状況および意識調査
○高見澤 早¹⁾、堀江 千紘¹⁾、長松 康子²⁾
¹⁾ 聖路加国際病院、²⁾ 聖路加看護大学
 - 24 Assessment of Tanzanian Women's Health Using the Framework of the Guide to Women's Health Status
○Yoko Shimpuku
St. Luke's College of Nursing
 - 25 日本におけるムスリム女性の妊娠・出産に関する文献検討
○田村千亜希¹⁾、田代 順子²⁾
¹⁾ 聖路加看護大学大学院博士前期課程、²⁾ 聖路加看護大学
 - 26 インドネシアにおける非感染性疾患増加の要因探索—文献からの考察
○水谷真由美¹⁾、田代 順子²⁾
¹⁾ 聖路加看護大学大学院修士課程、²⁾ 聖路加看護大学

シンポジウム 14:15~16:30
アリス C. セントジョン メモリアルホール
「看護実践の高度化と役割拡大」

司会 菱沼 典子、
松谷美和子（聖路加看護大学）
シンポジスト

「遺伝看護学をひらく」
有森 直子
「脳神経看護学をひらく」
大久保暢子
「周麻酔期看護学をひらく」
宮坂 勝之



シンポジウム

閉会式 16:30~16:40
アリス C. セントジョン メモリアルホール

自由集会 16:45~18:00
301講義室

高度実践看護開発検討委員会主催 診療報酬セミナー（委員会新設記念 第1回セミナー）
「看護に対する報酬の考え方と学会の役割」
講師：参議院議員 高階恵美子先生

参加者からの一言メッセージ

1. 全体

- ・ たくさんの学びができました。看護師として今後も学び続け前進していこうと励まされました。（東京、30代）
- ・ 臨床と同時に常に学んでいくことの大切さを教えられました。（長野県、30代）
- ・ 聖路加が歩み続けた看護と看護教育の姿勢を見ることができました。こじんまりした中に内容が豊かで学ぶことを楽しく感じました。（東京、70代）
- ・ 秋晴れのさわやかな爽やかな一日であったことを感謝!!（千葉、同窓会）
- ・ 多彩なプログラム（グローバルな視点の代会長、特別講演、興味深いランチョンセミナー、魅力的なテーマのシンポジウム、政策にたずさわる講演者による自由集会）を楽しむことができました。さわやかに晴れ渡った当日の天気のように、すがすがしい気分で会場を後にしました。
- ・ 新しい情報など、普段、生活しているなかでは得られないことを学ぶことができ、刺激を受け、もっと勉強しなければ、という気持ちにさせられます。（神奈川、40代）
- ・ 勉強になりました。また、今後の研究の励みにもなりました。

2. 講演

- ・ 特別講演はテーマに即した充実した内容で、海外からの講演者の選択も、又、異なったアカデミックさがあり、大変よかったです。（千葉、同窓会）

- ・ これらの時代に必要とされる国際看護の現状と課題、これまでの発展の大会長講演をはじめ、とてもやわらかな雰囲気の中、興味深い発表をたくさん聞くことができました。（東京、20代）
- ・ 講演を聞き、国際的な視点を学ぶことができ、自分の視野が広がりました。これからもっとたくさんのお話を吸収し、勉強していきたいと思えます。（千葉、20代）
- ・ Dr. Parfitt の Advanced と Advancing Nursing の違いからの Challenge と Professional であることの生き方に勇気づけられました。（東京、70代）

3. ランチョンセミナー・示説

- ・ 示説の全人的ケアに関する発表を興味深くきました。（埼玉県、30代）
- ・ 今回、簡単なお弁当を用意したランチョンセミナーの設定は、時間の有効な活用であったし、昼食で場所を探す煩雑さもなく、よいアイデアだと思った。（千葉、同窓会）

4. シンポジウム

- ・ シンポジウムがとても勉強になった。
- ・ 専門性の advancing している中で活動している3分野の方々の姿勢の中に Challenge と Professional の姿をみることで、真摯な模索があることに感動しました。（東京、70代）

● 聖路加看護学会 第六期 選挙結果

1. 理事長

氏名 所属
山田雅子氏 聖路加看護大学看護実践開発研究センター

2. 理事 7名

井部 俊子 聖路加看護大学
小山真理子 神奈川県立保健福祉大学
亀井 智子 聖路加看護大学
佐藤エキ子 聖路加国際病院
松谷美和子 聖路加看護大学
森 明子 聖路加看護大学
山田 雅子 聖路加看護大学看護実践開発研究センター

3. 監事 2名

菊地登喜子 なし
小松美穂子 茨城キリスト教大学

4. 評議員 33名

1) 北海道・東北地区 3名
片桐 和子 福島県立医科大学看護学部
土屋 陽子 岩手県立大学
長谷川真澄 天使大学
2) 東京地区（国外含む）14名
井部 俊子 聖路加看護大学
押川真喜子 聖路加国際病院訪問看護ステーション
小野 智美 聖路加看護大学
亀井 智子 聖路加看護大学
佐居 由美 聖路加看護大学
佐藤エキ子 聖路加国際病院
高井今日子 聖路加国際病院
田代 順子 聖路加看護大学
中村めぐみ 聖路加国際病院
平林 優子 聖路加看護大学
松谷美和子 聖路加看護大学
森 明子 聖路加看護大学
山田 雅子 聖路加看護大学看護実践開発研究センター
吉川久美子 聖路加国際病院看護管理室

3) 東京を除く関東・甲信越地区 9名

青木 康子 帝京大学医療技術学部
太田喜久子 慶應義塾大学看護医療学部
菊地登喜子 なし
小松美穂子 茨城キリスト教大学
小山真理子 神奈川県立保健福祉大学
酒井 禎子 新潟県立看護大学
中川 泉 NPO 法人ナースネット上越
野地 有子 千葉大学大学院看護学研究科
森田 夏実 慶應義塾大学看護医療学部

4) 東海・北陸・近畿・中国地区 5名

秋元 典子 岡山大学大学院保健学研究科
多賀 佳子 多賀助産院
仲村 秀子 聖隷クリストファー大学
野口 真弓 日本赤十字豊田看護大学
宮原 晴子 碧南市市民病院

5) 四国・九州・沖縄地区 2名

宇野 徹矢 阿蘇やまなみ病院
小田 正枝 国際医療福祉大学福岡看護学部

● 聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金「研究助成」採択者一覧

《2010年度》

代表者氏名 研究課題名
堀内 園子 アルツハイマー型認知症高齢者のせん妄体験の特徴と看護
砂川 昌子 大学の保健管理に携わる看護職の役割に関する実態調査
小泉 麗 医療者が行う重症心身障害児の胃瘻増設に関する親の意思決定支援の現状
松下由美子 独居認知症高齢者の「暮らし」の実態に関する研究
松谷美和子 卒業時と卒業後3カ月の看護学生の看護実践能力の明確化
片岡弥恵子 新人助産師によるパースレビューガイドを用いたパースレビューの実施と評価
亀井 智子 認知症高齢者と家族のライフレビューにもとづく「メモリーブック」作成過程における心理的効果の検証：認知症高齢者と家族の継続的接面による自己肯定感、抑うつ、生活行動の変化に焦点をあてて

《2011年度》

代表者氏名 研究課題名
宇佐美しおり 精神科ケア・マネジメントチームの機能強化における高度看護実践家の役割に関する研究
山田 雅子 退院調整看護師の専門的役割開発プロセスについての研究
池口 佳子 在宅ホスピス看護師が臨死期・死別期に行う Death education のアセスメントとその内容
亀井 智子 都市部における効果的な世代間交流看護支援方法の開発と普及：日米の継続的世代間交流実践プログラムの分析から
江藤 宏美 分娩後出血対応のアルゴリズムに関する教育プログラムの開発 対面式講義と e-learning の比較

■第16回聖路加看護学会総会の焦点

聖路加看護学会 森 明子、佐居由美（庶務担当）

～次期理事・監事・評議員報告、会計年度変更の承認～

第16回聖路加看護学会総会は、2011年9月24日（土）に出席者55名、委任状提出者280名により開会されました。学術大会会長である田代順子氏を議長とし、2012年度の事業計画案および予算案について説明がなされ、総会の議題はすべて承認されました。



氏家名誉会員（左）と山田理事長

本総会の焦点は、「第六期選挙結果報告」と「会計年度変更にもなう会則改定」の二点です。今年度実施された選挙により、評議員33名、理事7名、監事2名が選出されたことが報告され承認されています。あわせて、理事の互選により、現理事長の山田雅子氏が引き続き理事長を務めることが発表されました。また、本学会の会計年度は、現行の「10月1日～翌年9月30日」から「4月1日～翌年3月31日」に変更されることが承認されました。会計年度が一般的な会期と異なることによる会計事務作業の煩雑さの解消、総会前後の活動時に予算執行を可能とするための改定です。会計年度改定にともない、2012年度は2011年10月～2013年3月の1年半の会期となります（会費の追加徴収は行いません）。

本総会においては、第二回名誉会員として、氏家幸子氏（理事2期、第5回大会長）が承認され、会員証と記念品（安藤七宝店製聖路加看護学会誌表紙紙デザイン）のめがね立てが贈呈されました。

その他、学術大会の開催、学会誌・ニュースレターの発行、会員相互の学術的交流、学会組織強化の検討（一般財団法人化の検討）、看護実践科学研究助成（2012年度予算20万円）等の事業は引き続き実施予定です。看護実践科学研究助成は2012年度に3年目となり、第15回学術大会にて第一回基金採択者全員（7件）の成果発表がされました。

最後に、第18回学術大会会長には、秋元典子氏（岡山大学岡山大学大学院保健学研究科）が推薦され承認されています。

第17回聖路加看護学会学術大会のご案内（第1報）

開催日：2012年9月22日（土）

大会長：山田雅子（聖路加看護大学）

会場：聖路加看護大学

テーマ：連携の先に見えるもの 一つなく看護を科学するー（仮）

学術大会事務局：決まり次第ホームページに掲載いたします。そちらをご参照ください。

「連携の先に見えるもの 一つなく看護を科学するー（仮）」と題して学術大会を開催したいと考えています。

少子高齢化の大きな流れの中で、限られた医療資源を有効に活用するため、医療福祉及び居宅等との施設間連携が重要であり、その連携の要として看護師が機能することが期待されています。退院調整・退院支援あるいは地域医療連携といった言葉で語られることが多くなってきていますが、いずれにしても、患者は療養の場だけを移っていくではありません。人は、病気とともに生きていくため、価値観や生活そのものの転換こそを課題としてとらえ、その延長線上に療養の場の選択を位置づけているということが支援する者の視点として重要なのだと考えています。

こうした観点から、急性期病院、リハビリテーション施設、介護保険施設、居宅等へと療養の場を移っていく患者を支援する看護の一つの技術として捉え、それを科学的な視点で捉えることにチャレンジしたいと考えています。

特別講演には、「緩和ケアをつなぐ革新的実践と研究についてー大型研究プロジェクト（OPTIM）のリーダーの経験からー（仮）」と題して、聖隷三方原病院の森田達也医師にお願いいたしました。主に連携（実に曖昧な言葉です）をテーマにした臨床研究の手法について語っていただく予定です。シンポジウムでは、「Transition（移行）を支える看護技術の創出（仮）」をテーマに、看護研究者と看護実践家をシンポジストとして迎え、さまざまに移り行く状況にある患者を支援するとは何であるのか、「Transition（移行）ケア」の概念化を中心に議論を深めていきたいと考えています。

9月22日（土）の大会当日は、1日中、「つなぐ看護」の世界に浸り、日本の将来を見据えた新たな看護実践を作り上げていくヒントをつかんでほしいと思います。多くの方々のご参加を心より期待しております。

（大会長 山田雅子）

お知らせ

★学術交流委員会

2010年度・2011年度の「聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金」研究助成の採択者と研究課題の一覧をニュースレターとHPに掲載しました（2010年度：総額100万円・7名採択 2011年度：総額50万円・5名採択）。第16回学術大会では、2010年度の採択者7名が研究成果について発表を行いました。今後も、聖路加看護学会の学術交流に貢献していただくことを期待します。なお、2012年度（総額20万円）の募集は、12月頃から開始する予定です（応募方法はHPにて詳細をご確認ください）。

次回の学術交流会については、10月より委員会メンバーが交代するため、後日、新委員による企画をご案内いたします。

任期を終えるにあたり、会員の皆様のご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。（2011年度担当理事：鶴田恵子・中山洋子）

★学会誌編集委員会

2011年度は第1号4編、第2号3編の論文を掲載し、看護の発展に貢献する研究結果を無事社会に公開することができました。これからも多くの皆様からの投稿をお待ちしております。また、いつも快く査読を引き受けてくださる会員のみならずには大変感謝致しております。昨年度より事務局機能を外部委託したこともあり、投稿・査読・掲載のプロセスも迅速です。

今年度は委員の入れ替わりがありました。新たな体制でよりよい学会誌となるよう取り組んで参りたいと思います。（担当理事：太田喜久子）

★庶務

勤務先（所属）、住所、メールアドレスなどの変更がありましたら、学会事務局までご連絡ください。また、周囲の皆様への本学会入会への勧誘をお願いいたします。

連絡先：E-mail address：slnr@slcn.ac.jp、

Fax（大学代表）：03-5565-1626、郵送可。

（2008～2011年度担当理事：森明子、佐居由美）

★会計

昨年度の会費納入率は90%でした。皆様のご協力に心より感謝を申し上げます。

次年度より会計年度を4月開始ー翌年3月末日締めに変更していく予定です。2012年度は①2011年10月1日～2012年9月30日、②2012年10月1日～2013年3月31日までとなります。会費は②2012年10月1日～2013年3月31日分は徴収致しません。例年通り①2011年10月1日～2012年9月30日分の会費納入をよろしくお願い申し上げます。当該年度の会費納入確認後、学会誌の送付をさせていただきます。過去の納入がお済みでない方は、本年度分と合わせて納入して下さい。

振込先：郵便振替口座：00100-8-670371、加入者名：聖路加看護学会です。よろしくお願い致します。（担当理事：田代真理）

★高度実践看護開発検討委員会からのお知らせ

2011年度に新設した委員会です。看護技術はコストとして社会的に評価されてはじめて世の中に定着していくものと考えます。この委員会は、学会活動の中から生まれた新しい看護技術を診療報酬等の仕組みに載せていくことを目的としています。まずは会員の皆様に、看護技術をコストとして評価する意味や方法について興味を持っていただきたいと考え、第1回セミナーとして、参議院議員の高階恵美子氏をお招きし、「看護に対する報酬の考え方と学会の役割」についてお話いただきました。参加者された40名超の方々、ありがとうございました。少ない予算ですが、今年もセミナーを企画したいと考えております。どうぞよろしくご協力申し上げます。（委員長：山田雅子）

編集後記

次号からは、新メンバーへバトンタッチいたします。これまで多くの皆様に支えられニュースレターを発行できましたことに心より感謝申し上げます。

（2008・2011年ニュースレター委員一同）

●発行：2011年12月1日 ●編集：高木廣文 鈴木良美 新井優紀 ●印刷：株式会社イーフォー
●連絡先：聖路加看護学会事務局 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学内
電話 03-3543-6391（代表） FAX 03-5565-1626（代表） HPアドレス <http://slnr.umin.jp/>